

# 2019年度 事業報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

NPO 団体 志リレーション Lab

## 1 今年度の方針と目標

今年度は、事業運営のための正会員や賛助会員、企業会員の募集、周知啓発、個別支援や小集団支援に注力を傾けた。また、平成30年度から引き続き、各事業の実施にあたり、利用者のニーズに応じた事業かどうかの調査研究も行い、効果的な実施方法を決める。

それにあたり、今年度達成すべき目標は下記のとおりであった。

- 目標1 学習支援事業に関して、松山市内の小児科や学習塾との連携先を開拓する。
- 目標2 相談事業に関して、他機関等、相談先（保健医療福祉領域）を開拓する。
- 目標3 QOL向上事業に関して、利用者発信の企画を年3回実施する。
- 目標4 企業会員15件を目指す。
- 目標5 指導者の専門性向上のために年3回の研修、資格（児童発達支援管理者）の取得を目指す。

目標1は、概ね達成できている。詳細は、事業（1）事業（2）で示す。

目標2は、概ね達成できている。詳細は、事業（8）で示す。

目標3は、概ね達成できている。詳細は、事業（7）で示す。

目標4は、達成できていない。

目標5は、一部達成できている。詳細は、事業（1）事業（2）で示す。

## 2 各事業の実施状況報告

### （1）発達障害児者及びその傾向のある児者の学習等支援事業

### （2）病虚弱児者学習等支援事業

昨年度より継続して支援を実施する児童生徒については、本人及び保護者のニーズに応じて今年度の支援内容を検討して指導に取り組んだ。新たに対象となる児童生徒の個々の特性や、ニーズに応じて、家庭の状況に適した学習指導やライフスキの向上に取り組んだ。

さらに、支援を行う際には、個別の支援計画を立て、目標を持って支援に取り組んだ。

児童生徒の実態や目標に応じて、個別だけでなく小集団学習の機会を増やし、今後の活動の検討を行った。

年度末には、利用者のニーズに応じた事業かどうかの調査研究を行う予定であったが、継続の有無の聞き取り調査で終了している。また、ホームページや志Lab通信を通して、活動報告を行った。

(1) (2) の事業において、今年度は29名に対し、のべ628回の学習等支援を行った。今年度は、指導者2名、アルバイト3名で学習指導を行った。なお、支援者の専門性向上のための研修を毎月1回(のべ12回)実施した。資格の取得には至らなかった。

<次年度に向けての課題>

- ・特定非営利活動法人 志リレーション Lab 事業への移行

(3) 相談支援事業

専門性をもったスタッフが相談を受け、相談者のニーズに応じた支援(家庭教師派遣、ソーシャルスキルトレーニング(以下、SST)など)の検討を行った。

今年度は、1団体(にいはまローズ〈学生の部〉〈成人の部〉(8回/年))に対しSSTを行なった。さらに、にいはまローズでは保護者相談を6回実施した。なお、SSTに関する活動の情報は、志 Lab 通信で紹介した。

初回相談及び相談業務は、のべ133件であった。また、対象児童生徒及びその保護者のニーズに応じて、専門家相談(3件)、発達検査の実施(5件)、他団体との連携(8件)を行った。連携先は、別表1に示す。

<次年度に向けての課題>

- ・特定非営利活動法人 志リレーション Lab 事業への移行

(1) (2) (3) の事業において、今年度の利用登録者は58名であった。そのうち15名は今年度で支援の終了を予定している。終了理由としては、進学(6名)、外部機関へ紹介(3名)、状態の安定(4名)、事業内容に満足できない(2名)であった。支援終了予定以外の43名は、次年度も継続予定である。

(4) 保護者支援事業

今年度は、保護者に対する支援実施はなかった。

(5) 学童保育

今年度は、具体的に事業の開始に向けて取り組むことは予定していない。学童保育に加え、放課後等デイサービスの運営について情報収集を行った。

(6) QOL 向上(イベント企画・運営)事業

利用生徒5名に対して余暇活動の支援(プログラミング講座2回)を実施した。

<次年度に向けての課題>

- ・特定非営利活動法人 志リレーション Lab 事業への移行

(7) バリアフリー文具・自助具等貸出販売事業

個々のニーズに合わせたバリアフリー文具・自助具等の貸し出しを13名(iPad、拡大文字補助具、鉛筆補助具等)に実施した。数週間から数ヶ月程度の貸し出しを行い、日常生活で使用してもらうことが可能となり、13名中の10名が自分のものとして継続して使用したいと判断し、購入につながった。さらに、1名は、入学試験時の合理的配慮として学習上の補助具の使用が可能となり、9名は授業中や試験時の合理的配慮として学習上の補助具や支援機器の使用が可能となった。

バリアフリー文具や自助具等をホームページ内で紹介した。

<次年度に向けての課題>

- ・特定非営利活動法人 志リレーション Lab 事業への移行

(8) 啓発活動

本団体の活動内容を伝えるため、JDD net 愛媛の登録やホームページを利用して活動内容やイベント情報など随時更新している。また、志 Lab 通信を2回作成し、利用登録者や会員へ配布した。

啓発のために、リレーフォーライフ(がんへの理解や支援を願い、患者や家族らが交代しながら昼夜歩き続けるチャリティーイベント)(10/5)に4名参加をした。

また、済美平成中等教育学校で、学生対象の講義『いのちの授業』(2/29)を行った。

啓発活動を行ったことで会員が増え、正会員27名、賛助会員45名、企業会員6件となった。

<次年度に向けての課題>

- ・ホームページの充実
- ・特定非営利活動法人 志リレーション Lab 事業への移行

### 3 その他

各事業の詳細は別表2に示す。

①文部科学省の受託事業

「特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業」(1,957,560円)を実施した。事業の一環として、8月18日(愛媛)25日(岡山)の午前中は南雲明彦氏、5日(高知)、26日(広島)の午前中はあーさ氏による、子ども一人ひとりの障害や状態に応じた支援、適切な配慮や支援、自分に合ったICT活用についての講演会を開催した。全日程の午後からは、CASIO 計算機株式会社からは電子辞書を、株式会社 Loilo 社か

らはロイロノートを、愛媛大学教育学部からは音声教材を、それぞれ支援機器の紹介、教室の中での ICT 機器の活用講習会を開催した。4 日間でのべ 129 名の参加があった。

また、9 月 23 日に日本特殊教育学会において自主シンポジウムを開催し、11 月 10 日に日本 LD 学会においてポスター発表を行った。さらに、2 月 22 日に愛媛大学で、本事業の成果報告と株式会社ロイロ社、愛光学園、松山工業高校によるロイロノートの実践事例報告会を開催した。48 名の参加があった。

#### ②愛媛大学が文部科学省から委託された事業

「発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業」(816,640 円)、「学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」(539,616 円)の一部再委託を受け、指導員の派遣(合理的配慮支援員 1 名、ICT 指導員 1 名)を行った。

#### ③新居浜市教育委員会からの受託事業

「読み書き困難を抱える子どもの理解と支援」研修会(5 回)(466,720 円)を実施した。9 月 19 日と 10 月 11 日(小学校の部)に当団体スタッフによる研修会、10 月 11 日(中高の部)に未来高等学校の新開多恵氏による研修会、10 月 28 日と 1 月 20 日に特別支援教育士スーパーバイザー等の資格を持つ山田充氏による研修会、1 月 28 日に愛媛大学教育学部の荻田知則氏による研修会を実施した。5 日間でのべ 166 名の参加があった。

#### ④第 31 回 NHK 厚生文化事業団 地域福祉を支援するわかば基金

支援金(940,000 円)で学習支援機器等を購入した。

①の事業で行った講習会では、基金により購入した物品を含め、学習時の補助具や iPad 等を含む学習支援機器を展示し、使い方や製品情報をまとめた資料の配布及び実際に使い方のレクチャーを行った。また、当団体利用者を対象に学習上の補助具や支援機器等のフィッティングを行い、希望者には短期間レンタルを活用してもらった。

## 4 会議の開催

通常総会 2019 年 6 月 28 日に実施した。

出席者は正会員 24 名中 18 名、内委任状提出者は 8 名だった。

理事会 4 月 3 日、5 月 24 日、7 月 12 日、9 月 20 日、11 月 8 日、11 月 29 日、12 月 13 日、12 月 23 日、1 月 10 日、1 月 16 日、3 月 13 日の計 11 回実施した。